

令和8年度 浜分小学校の学校経営

北斗市立浜分小学校 大 和 則 幸

学校教育目標

学校教育目標

考える子

やりとげる子

なかよくする子

きたえる子

重点教育目標

「自ら進んで考え行動する子供の育成」

～子供の自立を促す学校を目指して～

【考える子】

「わかる・できる」を楽しみ考える子供の育成 ～個別最適な学びと協働的な学びの高度化～

学 校

- ① ICT・生成 AI を活用した授業改善
- ② 学力調査を踏まえた授業改善
- ③ 家庭学習の充実（習慣と内容の定着）
- ④ 読解力向上と読書活動の再構築
- ⑤ インクルーシブ教育の推進

家 庭

- ①学習ノートやテストを見るなど学習状況を把握します。
- ②テレビやスマホを消して集中する環境を整えます。
- ③読書環境を整えます。

【なかよくする子】

生き生きとした集団生活をおくる子供の育成 ～主体的成長を促す発達支持的生徒指導づくり～

学 校

- ①よさを認め合い高め合う集団の育成
- ②コミュニケーション能力の育成
- ③考え議論する道徳の授業に改善
- ④教育相談・不登校支援の充実
- ⑤いじめ防止教育の強化

家 庭

- ①子供の「よさ」を見つけ、ほめ、励まします。
- ②スマホや LINE の使い方に注意します。
- ③地域の行事に積極的に参加させ感謝の気持ちを持たせます。

【きたえる子】

心身の健康と安全意識の向上を目指す子供の育成 ～日常生活に生きる健康習慣と安全行動の確立～

学 校

- ① 生活規律の確立
- ② できる・楽しい体育の授業改善
- ③ 防災安全教育の充実
- ④ 体力の向上の取り組み
- ⑤ 健康教育の充実

家 庭

- ①家庭や地域でもあいさつをする習慣をつけます。
- ②「早寝」「早起き」「朝ごはん」
- ③家庭で交通安全の意識を高め行動する力を付けます。

【やりとげる子】

教育活動全般にわたり自分の考えで答えを導きだそうとする機会や失敗や間違いからの立ち上がりの場を設定

【考える子】

「わかる・できる」を楽しみ考える子供の育成～個別最適な学びと協働的な学びの高度

① ICT・生成 AI を適切に活用した授業改善

社会の急速なデジタル化が進む中、子供たちには情報を正しく活用し、自ら考える力が求められています。ICT や生成 AI を目的ではなく「学びを深めるための道具」として適切に活用し、一人一人の理解を高めるとともに、仲間と学び合う授業づくりを進めていきます。

- ・ 1人1台端末の効果的活用の深化

一人一人が自分の考えをまとめたり、友達の考えと比べたりできるように端末を活用します。

「使うこと」が目的ではなく、「学びが深まること」を大切にします。

- ・ 生成 AI の教育的活用と情報モラル・情報活用能力の体系的指導

生成 AI を正しく活用する力と、うのみにせず考える力を育てます。

あわせて、インターネットを安全に使う態度や責任ある行動を身に付けます。

- ・ 探究的な学習の推進

「なぜだろう？」という疑問から始まり、自分で調べ、考え、まとめ、伝える学習を大切にします。自ら課題を見つけ、解決していく力を育てます。

② 各種学力調査を踏まえた授業改善

学力調査は、子供たちの学習の定着状況を把握し、学校全体の課題や一人一人のつまずきを明らかにする大切な手がかりです。そこから見えてきた課題を授業の改善につなげていくことを目的としています。

・ 学力調査の結果から明らかになった課題を分析し、授業の中でどのように補っていくかを教員間で共有・検討します。子供たちの「つまずきの早期発見」と「丁寧な支援」につなげていきます。

③ 家庭学習の充実（習慣と内容の定着）

家庭学習は、学校で学んだことを自分の力で確認し、理解を深めるために欠かせない学習の場です。また、計画的に学習に取り組む習慣を身につけることで、将来的な自立した学びの基礎を築くことにもつながります。

- ・ 学年ごとに適切な学習時間や内容を示し、家庭学習の指針を明確にします。

・ 毎日の「学校からの課題」や「自ら学習課題を設定」する内容を継続して取り組み学ぶ習慣を身につけます。

- ・ 毎月第3週目を強化週間とし、「自分の言葉でまとめる」学習を設定します。

④ 読解力向上と読書活動の再構築

言葉の力は、すべての学びの土台となります。本校では、読書を通して考える力や感じ取る力を育てるとともに、学習につながる確かな読解力の向上を目指します。

- ・ 読書の充実と図書館活用の促進

落ち着いて本と向き合う時間を大切にし、読書習慣を育てます。

学校図書館を積極的に活用し、さまざまな本に出会う機会を広げます。

- ・ ICT と紙の読書の効果的併用

紙の本のよさとデジタル資料の便利さを、目的に応じて使い分けます。

調べ学習や情報収集にも ICT を活用し、読む力を広げます。

- ・ 言語活動の充実による読解力向上

読んだことを話し合ったり、まとめたりする活動を大切にします。

自分の考えを深め、相手に伝える力を育てます。

⑤ インクルーシブ教育の推進

子供一人一人の違いや特性を大切にし、誰もが安心して学び、力を発揮できる学校づくりを進めます。支援が必要な子供を個別に支えるだけでなく、学級全体で支え合う環境を整えていきます。

- ・ 通級指導教室との連携強化

通級指導教室と情報を共有し、児童の実態に応じた支援を行います。

学級での学びにつながるよう、指導内容の連携を図ります。

- ・ 合理的配慮の組織的实施

一人一人の困り感に応じて、学習方法や環境を工夫します。

担任だけでなく学校全体で話し合い、継続的に支援します。

- ・ 特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制充実

校内の相談窓口を明確にし、早期発見・早期対応に努めます。

保護者や関係機関と連携しながら、安心できる支援体制を整えます。

【なかよくする子】

生き生きとした集団生活をおくる子供の育成 ～主体的成長を促す発達支持的生徒指導づくり～

①よさを認め合い高め合う集団の育成

子供たち一人一人が自分のよさに気づき、仲間のよさを認め合いながら、ともに成長していける学級・学年・学校づくりをめざしています。

- ・互いのよさを見つけ、言葉で伝え合う授業を通し、肯定的な関わりを通して、人を認める力と自尊感情を育てます。
- ・目標設定とふりかえりを行い、互いの行動や成長を見つめ直すことで、集団としてのまとまりと主体性を高めます。
- ・行事や集会を通し、異学年仲間と関わる機会を増やし、思いやりやリーダーシップ・フォロワーシップの力を育てます。

②児童理解にもとづいたコミュニケーション能力の育成

コミュニケーション能力は、学習面だけでなく、友達との関わりや集団生活の中でも重要なスキルであり、これからの社会で生きていくために欠かせない力です。

- ・グループでのディスカッションや共同制作の活動を通じて、言葉で自分の考えを伝える力や、相手の意見を聞き入れる力を育みます。
- ・授業の中で教師が実践する「聞き方」や「伝え方」を子供たちに示し、より良いコミュニケーションを促します。

③考え議論する道徳の授業に改善

「考え議論する道徳」とは、道徳的な問題に対して一人一人が自分の考えをしっかりと持ち、違った意見を尊重しながら対話を深めることを目的としています。社会で必要とされる共感力や思いやりを育むために非常に重要です。

- ・「もし自分が困っている友達を見かけたとき、どうすればよいか？」といった具体的な場面設定で意見交流します。
- ・グループでのディスカッションを取り入れ、自分の考えを発表し合う場を作ります。また、異なる意見に対してどう対応するか、柔軟に考える力も育てていきます。
- ・道徳の授業だけでなく、学級委員会や学校行事など、集団活動を通じて、協力や責任感、感謝の気持ちを育てる機会を増やし、行動を、振り返ることで、その価値を深く理解できるようにします。

④教育相談・不登校支援の充実

子供が安心して学校生活を送るためには、「困った」と言える環境づくりが何より大切です。一人一人の声に丁寧に耳を傾け、早期発見・早期対応に努めます。

- ・教育相談の充実
定期的な教育相談を実施し、子供の小さな変化を見逃さない体制を整えます。
担任だけでなく、校内で情報を共有し、組織的に支援します。

・不登校児童への支援

安心できる居場所づくりや個に応じた学習支援を進めます。
保護者や関係機関と連携し、無理のない形で学習を保障します。

⑤いじめ防止教育の強化

いじめは絶対に許されない行為であるとともに、未然に防ぐことが何より重要です。互いを尊重し合う心を育て、安心して過ごせる学校づくりを進めます。

- ・いじめ未然防止の取組
道徳や学級活動、授業を通して、相手の気持ちを考える力を育てます。
児童会活動を中心に、子供主体のいじめ防止の取組を進めます。
- ・SOS の出し方に関する授業の充実
困ったときに「助けて」と伝える方法を具体的に学びます。
一人で抱え込まず、信頼できる大人につなぐ力を育てます。

【きたえる子】

心身の健康と安全意識向上を目指す子供の育成～日常生活に生きる健康習慣と安全行動の確立～

①生活規律の確立

子供たちが互いを尊重し、落ち着いた環境の中で学び合い、成長していくためには、一人一人が基本的な生活習慣や社会のルールを身につけることは大切です。『浜小スタンダード』を共有し、その実践に取り組んでまいります。

- ・朝のあいさつ運動や時間を守る習慣づくり
- ・清掃活動や整理整頓の徹底
- ・児童会・学級活動を通じてのルールの見直しと再確認
- ・教職員による共通指導と声かけの徹底

②できる楽しい体育の授業改善

運動が得意な子もいれば、苦手意識を持つ子もいるのが現実です。そのため、すべての子供が「楽しい」「できた」と感じられるように、授業内容や指導方法を工夫し、子供たちの理解と技能の習得を支援してまいります。

- ・めあてを明確に伝え、自分が何を学び、どのように成長するのかを意識させます。
- ・すべての子が達成感を持てるよう、運動を段階的に分解し、やさしいステップから取り組める工夫をします。
- ・グループ活動やペアでの学び合いを通して、仲間と教え合い、認め合うことで自信を育てます。
- ・ICTを活用し映像による動きの確認や、デジタルツールを活用して自分のフォームや改善点を見つけるなど、
- ・子供たちが安心して活動に取り組めるよう、けが防止の指導や環境整備にも細心の注意を払います。

③日常的な防災意識と行動力の育成

交通安全の意識と行動力の育成は、特に重要な課題であり、登下校中や放課後の外出時、交通事故や不注意によるけがなどの危険から自分を守るために必要な判断力と行動力を、日々の教育の中で身につけていきます。

- ・学期はじめに、通学路の危険箇所の確認や横断歩道の渡り方、道路での歩き方について全校で指導します。
- ・地域の交通指導員の方々や警察署と連携し、交通安全教室や交通安全集会（7/1）を実施します。
- ・学級活動や生活科、道徳の時間で、「命の大切さ」「周囲への配慮」「交通ルールの意味」などを考え、行動につなげます。

④体力の向上

- ・健康と運動の関係について啓発し、休み時間や放課後、余暇の時間に運動に親しもうとする意識を高めます。児童会活動と連携した取組や長期休業における運動の機会に努めます。
- ・体力調査項目（握力、反復横跳びなど）を取り入れ挑戦し、記録を残しながら自分の成長を実感します。

⑤健康意識の向上

生活リズムの乱れや運動不足、過度なデジタル機器使用など、健康に関わる課題が多様化しています。学校・家庭・地域が一体となって、子供たち自身が「自分の健康を大切にする力」を身につけることを目指します。

- ・授業を通じて、「睡眠・食事・運動・心の健康」や各学年に応じた「思春期教室、生活習慣病予防教育など」を実施
- ・朝の健康観察を丁寧に行い、自分の体調に気づく力を育てる
- ・定期的な心のアンケートとカウンセラーとの面談体制
- ・年に数回、家庭との連携による「早寝・早起き・朝ごはん」週間を実施